

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	開設以来の理念として「心の癒しを介護の心とし、地域との交流を大切に、いつまでも生きがいを持って社会と係わるよう支援する」を掲げている。	○
2	<p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	理念を職員が共通して見るホールに掲示し、申し送りや問題解決に際し、サービスの提供が理念に照らして適切かを基準に確認している。	○
3	<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>	地域の納涼祭等の行事に参加している。また、弊施設において開催される行事等に近隣の住民を招待し、ご参加を頂いている。	○
2. 地域との支えあい			
4	<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	職員に元気な挨拶を励行し、ご利用者様と散歩などで外出した際には気軽に立ち話をして頂ける状況になっている。	○
5	<p>○地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	地域行事に積極的に参加し、地域住民の方に施設の意義と役割をご理解いただけるよう努めている。	○

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	施設運営推進会議の場に自治会長にご参加を頂き、施設で提供されている支援内容等を表した「ルルドの家通信」をお渡しし、高齢者介護に関するご相談を忌憚なく頂けるよう呼びかけている。	○	
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	ご利用者様の快適性、安全性を向上するため、施設において問題点の抽出を行い、環境改善(防災設備、避難路の整備、段差の解消、照明器具の改善、入浴施設の安全器具設置等)を行った。 更なる向上を目指し、日々の業務内において問題の抽出と解決を継続して行っている。	○	
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	外部評価や内部における問題抽出と解決の結果を二月毎の運営推進会議の場で報告し、出席者からの具体的な意見をお聞きして、改善内容に反映させている。また、運営推進会議にはご利用者様家族に周知を行いご参加を頂いている。	○	
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	施設ケアマネージャーが窓口となり、サービス提供のあり方についてのご相談を市担当者の方にさせて頂いて、不明点の明確化を行うことにより、ケアの向上に取り組んでいる。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	現在、施設には権利擁護の仕組みを利用されている方がおられ、その支援を行うことにより実地に制度を学ぶ機会に恵まれている。成年後見制度については冊子を回覧、外力として司法書士とも連携し、制度利用の必要性が利用者様にある場合に備えている。	○	
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	運営者・管理者・全職員参加で高齢者虐待防止に係る研修を行い、虐待に関する再認識と防止の徹底を行った。	○	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書、重要事項説明書ともにご利用者様家族と読み合わせを徹底して行い、質疑応答を繰り返し、ご納得を頂いた上で署名を頂いている。また、契約時に気づきにくい内容について、職員からご説明をさせて頂いている。	
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご利用者様から直接ご意見ご希望を頂く機会を設けている。また、各ご利用者様担当職員、担当ケアマネージャーが日常生活の中で不安点、ご不満をお伺いし、ご利用者様の主張を代理している。また、弊社施設間で所属外の施設においてご利用者様のご意見を伺う、相互監視の機会を設けるための検討を行っている。	
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	暮らしぶりについては「ルルドの家通信」の発行により、健康状態は、平時についてはケアプランによって定期的にご報告を行い、変化があった際にはその都度ご連絡を差し上げている。また、金銭管理については、預かり金は出納帳に記載し、出金状況をご家族にご報告及び承諾の捺印を頂いている。職員の異動については、個々にご利用者様ご家族にご	○
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ケアプランの変更、継続のご承諾の際、頂いたご意見については担当ケアマネージャー及び管理者が運営会議の議題とし、運営者と共に反映をしている。また、玄関に意見箱を設置し、忌憚のないご意見を求めている。	○
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営会議を定期的に行う際、職員から各々問題と思われる点を議事として提出させ、具体的な解決策を出し運営者と共に解決に当たっている。	
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている		○
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	指導的な立場にある運営者だけでなく、サポートを行う運営部門スタッフを巡回させ、職員の精神衛生に配慮している。事情により異動が発生した場合は、入居者の状況に応じた説明を行い、入居者へのダメージを極力防ぐ配慮を行っている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年度内において開催される①認知症ケア②感染症③介護予防の外部研修を受けるよう、管理者・ケアマネージャー・職員に励行している。費用負担は運営者が行っている。	○
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他グループホームとの相互交流を行い、日常的な認知症ケアや施設介護の実際についての意見交換や勉強会を実施している。	
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	「風通しの良い」施設を目指し、運営者が個々の職員からの意見や悩みを直接に聞き、職員の不安を軽減できるよう努力しており、一定の成果を挙げている。	
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	施設見学から契約、ご入居に至るまでの間にご本人からのお話を傾聴した上、ご希望に添ったサービスの提供が出来るよう努力を行っている。また、体験滞留の機会を設け、施設における生活の実際を知って頂いた上で改めてご意見・ご希望を伺っている。	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	ご本人様に対するのと同様、ご入居に至るまでの間に抱えている問題点・悩みをお伺いし、ご希望に添ったサービスの提供が出来るよう努力を行っている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人・ご家族からのお話を伺った上、担当職員、担当ケアマネージャーが検討を行い、適切なサービス提供が為されるよう手配を行っている。福祉用具・用品の使用が必要な場合は社内の福祉用具担当者が即時対応を行う体制を確立している。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	施設側の判断にのみ実施の内容を阿るのではなく、ご家族・ご本人の人格を尊重し、先ずお話を伺い、ご納得の上でサービス提供を行う。また、体験滞留(宿泊)の機会をご利用頂き、施設の雰囲気に馴染めるよう努力している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	清掃や、配膳・後片付けを入居者の状況に合わせて共に行い、共通して「役割を担う」ことの喜びを共有している。ご利用者様それぞれに持つ背景に関心を常に持つことにより、歴史ある人からの学びの機会を得ている。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	ご利用者様ご家族に行事への参加を求めている。また、ご親族の近況などを面会時にお話頂き、外部環境との関連を忘れないようご協力頂いている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	面談時や面会時、ケアマネージャーが家族関係や家族の持つ背景をお伺いし、関係の理解に努めている。また、進行する認知症へのご理解を頂くよう、説明を行っている。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人が会いたい友人や近隣の方と会える機会を作るため、送迎や同行、面会にきて頂くための支援を行っている。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	集団レクリエーション活動などを通して、ご利用者様同士が関わる場を設け、関係の円滑化を支援している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	在宅介護に移行したご利用者様には、近隣にいらした際や、行事の際にはお越し頂けるようご案内申し上げている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	担当ケアマネージャーや担当職員が、ご利用者様ご意見を伺い、あるいは察知し、ご利用者様の意向を汲んだ支援が出来るよう努めている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	担当ケアマネージャーや担当職員が、ご利用者様が在宅で暮らしてきた生活環境・介護環境に近い安楽な生活が出来るよう、在宅におけるケアマネージャーとも連携して把握に努めている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	施設における生活の中で、心身状態を担当職員が観察把握を行い、記録をしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人や家族から日頃の関わりの中で要望を聞き、また毎月のカンファレンスや職員会議で全入居者のニーズについて話し合い、ケアマネージャーがとりまとめてプランとしている。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は3ヶ月毎の見直しとなっているが、毎月のカンファレンスやモニタリングを経て、入居者の心身の状態変化や家族の意向・主治医の意見等により随時プランの見直しを行っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランに基づくサービス提供を行い、その結果・変化を担当職員と共有しながら、実践の在り方や介護計画の見直しに反映させ続けている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	理美容師による整容、訪問歯科医療などの外部サービス受け入れや、通院介助、また、コンサート等への介助など、ご希望に合わせた支援を行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	防災計画に基づき、消防からのAED講習や防災訓練協力を頂いている。また、外部ボランティアの方々に、八木節や、フラダンスなどの公演を行って頂き、ご利用者様の文化支援にご協力を頂いている。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている			
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	必要が生じた際、担当ケアマネジャーが地域包括支援センターに相談し、ご意見を伺っている。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご利用者様かかりつけの病院医院への送迎・通院介助を行っている。また、月二回の定期訪問診察の担当医に関するご説明を契約時に行い同意書を頂いている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>		
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>		
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	基本方針に「人権と意思を尊重し、一人ひとりに合った介護を心がけます」を掲げ、日々のケアの中におけるご利用者様のプライバシー、尊厳を損ねる行い、ミーティングの中で相互に厳格に評価している。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	定期的に利用者様のご希望やご意見をアンケートで頂くほか、担当職員がご利用者様と共にご自身が快適に暮らせる環境作りに向けた意見抽出を行っている。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご利用者様のペースを尊重し、入浴のスパンやタイミングを個別に計り、また、食事のペースをご利用者様に合わせるなど、「待つ」ことを重視し、焦らない介護を心がけている。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	理美容師の訪問サービスを受け、ご好評を頂いている他、ご利用者様に馴染みの美容院等がある場合には送迎の介助を行っている。結婚式などに参列される方が居る場合は化粧などの支援も行っている。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	配膳・後片付け等、ご利用者様の心身の状況に合わせてご協力を頂いている。お一人一人の好みに合わせた調理法や食材を工夫して、食事をお楽しみ頂いている。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	ご利用者様のご希望・ご意見を伺う際、食べたい食材、おやつなどのご希望を頂き、直接購買内容に反映させている。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄チェック表を毎日記録し、ご利用者様の理想的な排泄パターンに近付けるよう支援を行っている。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	ご利用者様のペースを尊重し、入浴のスパンやタイミングを個別に計って行っている。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	居室の環境整備や照明管理、個別の温度管理を行い、快眠ができるよう支援を行っている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	ご利用者様の心身の状況を勘案し、配膳や後片付け、洗濯物たたみなどの作業を担当者と共同して行っている。また、集団レクリエーションの他、ご利用者様個別の趣味を聞き取り、張り合いを持って行っていただけるよう、必要資材の提供などの支援を行っている。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外来受診時や買い物の時、ご利用者様ご自身にお金を持っていただいて支払いを行って頂いている。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ご希望がある際には、行きたい場所へ行けるよう介助を行っている。また、月に一度は担当職員が外出の介助を行っている。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	敬老会、コンサート等への付き添い介助を行っている。また、冠婚葬祭への出席、墓参などへの外出介助も行っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	施設の電話を使ってご家族などへの電話が出来るよう支援している。また、ご家族への電話はリハビリの一環としても利用している。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	ご家族、ご友人や近隣の方にはお気軽に訪問を頂いている。居室にお茶を出すなど、ゆっくり団欒の時を持って頂けるよう支援を行っている。7		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	管理者・担当ケアマネージャーによる身体拘束に関する周知を職員に徹底し、完全に廃止・禁止を行っている。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	在室中の居室に鍵を掛けることはない。玄関鍵については、防犯上の危惧がある夜間等以外は鍵をかけないよう努力している。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	ケアプランに所在確認を明示し、ご利用者様の負担にならないようスタンスに配慮しながら状態・状況の把握を常時行っている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	危険物品の保管は場所を決めて行い、職員がその所在について把握できるよう管理を行っている。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	それぞれのご利用者様のカンファレンスを通じ、担当者に周知徹底を行っている。また、マニュアルを作り、知識の共有を行っている。防災については消防署から年4回の講習を受けており、有事に備えている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	定期の防災訓練時、実施している。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	定期の防災訓練時、避難訓練を行っている。地域協力については運営推進会議において自治会長と協力連携体制を協議している。避難先については同グループ施設が連携して受け入れを行う。		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	ご家族と十分に話し合いを行い、自由な環境の中で起こり得るリスクについてご理解を頂くと共に、施設は見守りを重視して安全の確保に努めている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	バイタル測定を毎日行い、体調の管理を行っている。また、職員が担当を問わず観察を注意深く行い、変化があった場合については速やかに主治医に意見を求めている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬局から処方が行われた際、個々の薬に関する説明文書を頂いており、担当ケアマネージャー、担当職員が理解を共有している。投薬後、表出した変化について注意深く観察を行い、主治医に報告を行っている。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	本人の機能的な身体状況を把握し、食材の工夫や、腸の活動を促す運動を日常生活に取り入れ、便秘のコントロールを行っている。また、主治医と相談し、下剤・整腸剤の処方を受けている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後、一日三回の口腔ケアを行っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	健康チェック表において、3回の食事の水分量を把握し記録管理している。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症予防マニュアルに基づき、館内の消毒清掃など恒常的な感染予防を行っている。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	厨房の清掃消毒担当者を定め、徹底している。また、腐敗の危惧があるストックを持たないことを基本に、作った料理は持ち越しをしないことを規則としている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	前庭にベンチや樹木を配し、公園のように受け止めて頂けるよう配慮している。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	空調機器にのみ温度管理を頼らず、窓の開放による自然な換気や、自然光の採り入れを行うよう配慮している。前庭に季節を感じられる草木を配し、ご利用者様にお楽しみ頂いている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールと距離の置かれた場所に椅子などを置いた共有空間を設け、落ち着ける場所を居室以外にも持てるよう配慮している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具やご利用様が好まれるものを居室に置いて頂き、居心地よく、落ち着いて過ごせる環境を作れるようご家族とも共同して支援を行っている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	毎朝必ず換気を行うほか、空調機器にのみ温度管理を頼らず、窓の開放による自然な換気や、自然光の採り入れを行うよう配慮している。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	障害物のない見通しの良い廊下に、歩行補助手すりを配し、自立歩行に伴う転倒を予防している。また、施設内の段差、建具の開口に配慮し、障害なく往来が出来るよう配慮している。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	トイレや居室に、ご利用様が分かり易いようキャプションを付け、混乱なくご自身で目的の場所に行けるよう配慮している。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	前庭に車いすやシルバーカーでも往来が可能な散歩コースを設けている。また、散歩の際に楽しめるよう、テーブルやベンチ、四季折々の草木を配している。		

V. サービスの成果に関する項目			
項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

自然豊かで閑静な環境の中で、ご利用様がゆったりと生活されています。グループホームとしては珍しい広々とした芝生の庭を四季を通じてお楽しみ頂けます。また、地域の方を招いての納涼祭や、季節に応じた演奏会などを精力的に行い、ご利用者様にとって楽しい生活の場、「我が家」たることを目指しております。

身体機能の低下後もご利用様に安全・快適にご入浴を頂ける機械浴設備、防災設備などを完備しております。